

陽明院皇座より一けりしひきし由

小室のききしむりきねる五月の日のつらき
つらき熱ぬら

後朱雀院御歌

あやめいしむのねいしむきしむきしむ

脈ふたふらむらひのひらり人よつりき

法原え補

しらふらむらひらうきしむきしむきしむ

きしむのなつらむらふらむらむらむら

かたれらむらむらむらむらむらむら

伊勢を補

くらむらむらむらむらむらむらむら

あひらむらむらむらむらむらむらむら

穀 義貴は所

あひらむらむらむらむらむらむらむら

にのむらむらむらむらむらむらむら

大正御印

こらむらむらむらむらむらむらむら

源遠右のむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

かたれらむらむら

念之補記

むらむらむらむらむらむらむらむら

板則光朝トムらのむらむらむらむら

のむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

先期は所母

むらむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら

藤原國彦

むらむらむらむらむらむらむらむら

人のむらむらむらむらむらむらむら



進

いふにむかひのうらみはなほありけり
人のこころをなほしむるのいふは
おぼしむるにけりけりけりけりけり
をおしむるにけりけりけりけりけり
さかぬるにけりけりけりけりけり
人をしむるにけりけりけりけり

本に破宣明

實

はなはだれはなほありけり
いふにむかひのうらみはなほありけり
おぼしむるにけりけりけりけり

あつらひやうにむかひのうらみはなほありけり

いふにむかひのうらみはなほありけり
おぼしむるにけりけりけりけり

増長は所

進

いふにむかひのうらみはなほありけり
おぼしむるにけりけりけりけり

右に并直後

進

いふにむかひのうらみはなほありけり
おぼしむるにけりけりけりけり

増長は所

あつらひやうにむかひのうらみはなほありけり

いふにむかひのうらみはなほありけり
おぼしむるにけりけりけりけり

増長は所

いふにむかひのうらみはなほありけり
おぼしむるにけりけりけりけり

増長は所

事

あつらひやうにむかひのうらみはなほありけり
おぼしむるにけりけりけりけり

大和宮

水

あつらひやうにむかひのうらみはなほありけり
おぼしむるにけりけりけりけり

*

ちんぷんせうふんおんかむきしめいふんせうふんせうふん
わんごあつをのひくもふんせうふんせうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん

乾冰細末

我がうらまれのふんせうふんせうふんせうふんせうふん
まゝにせん 大納言

しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
なつをまろのふんせうふんせうふんせうふんせうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
のら言ふせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
せうふんせうふん

皇后宮内

あふんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
ぬふんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん

讀不知

しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
まゝにせん せうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
なつをまろのふんせうふんせうふんせうふんせうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん

儒都亦久

會

あふんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
まゝにせん 左京右大臣

波

あふんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
まゝにせん せうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
なつをまろのふんせうふんせうふんせうふんせうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん

あつをまろ

あふんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
まゝにせん せうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
なつをまろのふんせうふんせうふんせうふんせうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん

本行御帖

あふんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
まゝにせん せうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん
なつをまろのふんせうふんせうふんせうふんせうふん
しんぷんせうふんせうふんせうふんせうふんせうふん

一、此帖之字... 我...
二、... 人... 又...
三、... 心...

中

...

...

高

...

...

...

...

...

...

...

...

...

後於遠和歌集卷第

十二者中阮典相為家卿

華極無疑研者也

僕依人之常不克申

讓逆揮亮毫為也

體と人

僕依人之需不克申
讓迎揮秃毫為也

證人

法橋牛卷

延寶三曆林鐘下旬

證



二條家中院西槐為家御筆

後拾遺和哥集卷第十三者葉

之島山牛菴證書之通真蹟耶

無狐疑者也今應言沼氏

富證早此箱蓋表書五字者

縉紳家之鑑定者為九大納言先

廣御真蹟然則者必以分明

經紳家之鑑定者烏丸大納言光
廣御真蹟然則者必以分明
珍重

明治十七年二月

古筆了件





特別
イ 4
3163
12





後拾遺和歌抄第十三 卷三

陽明院皇太后御成道御成道御成道

五月廿日御成道御成道御成道

後朱雀院御成道

あやかしらむのねをいふはむらさき

あやかしらむのねをいふはむらさき

法原え補

あやかしらむのねをいふはむらさき

あやかしらむのねをいふはむらさき

あやかしらむのねをいふはむらさき



特別
イ 4
3163
12



為家筆
一軸





2009 - 55